



平成23年度 ブラジル通信
 1月14日(土)～1月20日(金)
 No. 19
 発行者：宮本 朋子

パラナ州副知事特別補佐との面談

元クリチバ市の教育局長をしていたパウロ シュミットさんと話をする事ができました。現在、パラナ州副知事の右腕として活躍するパウロさんは、2002年に日本を訪問した際、日本にいるブラジル人児童生徒に対する教育について調査を行いました。その結果、日本全国で3万6千人の子どもたちが学校に通っていませんでした。そう、日本政府やブラジル領事館に対応を働きかけた経験をもっています。そのため、私が今回調査したブラジルに帰国した児童生徒の実態を伝えると、学校に適應できるよう言葉や心のサポートの必要性に賛同していただきました。そこで、パラナ州にいる帰国児童生徒の実態を正確に把握するため、各学校に対するアンケート調査の協力をお願いしました。今までの訪問先では、移民の多いブラジルで日系人だけを特別扱いできないと断られてきましたが、ここ数年多くのブラジル人が帰国している現状から、無視できない問題だと話してくれました。また、出稼ぎ経験者がブラジルにもち帰ったお金は、年間40億ドルもあり、ブラジル経済にも大変貢献しているそうです。そういった面からも、政府がサポート体制を整えていくべきだとの考えをもっていました。パラナ州には、日系人の先生も多いと聞いたので、日本語とポルトガル語のできる先生にも協力を願っていきたいとの思いも伝えました。



パラナ州副知事と特別補佐のパウロさん
 (教育局長兼任)

貧困街にある学校訪問

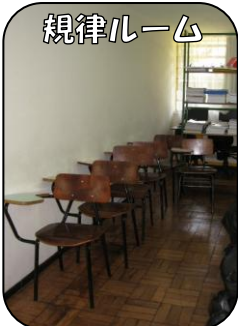
3年前まで、校内暴力、けんか、麻薬取り引きなどで荒れていた学校を訪問しました。当時の学校は、落書きとゴミだらけで、雨漏りもひどく、勉強できる場所ではありませんでした。そのうえ56%の生徒が留年しており、学校に来る先生もわずかだったそうです。そこで、まず学校へ関心をもってもらおうよう生徒の家族と話し合い、コミュニティに協力してもらって学校の施設改善を行いました。キーワード「チャンス(機会)」を合言葉に、学校は勉強する機会を与えてくれる場、(留年している生徒に対して)もとの学年に戻れるチャンスの提供として、2つのプロジェクトに取り組みました。1つ目が規律ルームの設置。学校には、人間関係、場所、時間など、いろいろな規律があります。それを守れなかった場合に利用し、生徒、保護者、教師で話し合い、その記録を個人ファイルに残していったそうです。2つ目は、個別対応プラン。4、5年留年を重ねた生徒が157人もおり、年齢が下のクラスに入って勉強していました。そこで、本来の学年に戻れるよう、希望者に延長授業を行い、疑問を質問できる機会を作りました。また、テストで成績をとれるよう、補習プリントで個別指導も行いました。その結果、9.6%まで留年の数を減らすことができました。現在は、学校で学んだことを家庭や地域へと広げていけるような「維持可能な発展教育(環境教育や食育)」を進め、家庭と地域環境の改善に取り組んでいます。



学校の塀に生徒が描きました

愛、努力、規律、友好、団結など
 学校に関する言葉があふれています

規律ルーム



市民権を学ぶ村 学習活動センター訪問

ピラクワラ市にあるミニシティと呼ばれる学習活動センターを訪問しました。以前は、遠足のような行事で利用されていたようですが、今年度から1日制をめざす学校の6・7年生を対象に、市民権を学習する場としてオープンします。政治・文化・環境・労働の4つのテーマに分かれており、市役所から裁判所、銀行、スーパー、工場、美術館など、本当の町が子どもサイズに作られていました。子どもたち一人一人が、テーマをもって実践しながら学習できる施設として、幅広く利用されることを期待します。



ブラジルの通信教育

クリチバ国際単科大学と国際テクノロジー単科大学が併設されている、UNINTERという私立の通信大学を訪問しました。ここには、5つのスタジオがあり、そこでインターネットを通して、オンラインで授業が行われていました。学生たちは、ブラジル国内にある450ヶ所の拠点校、または自宅のコンピュータで授業を受けることができます。授業は、月曜～金曜の18:20～22:35、土曜の20:00～21:30となっており、授業後は直接質疑応答もできます。また、毎回の授業は録画されており、24時間いつでも確認できるようになっていました。毎月の授業料は、R\$155～となっており、コースによって金額が異なるそうです。現在は、ブラジル国内の学生を対象に行われていますが、出稼ぎ日系人の子どもたちのためにも、今後は、海外からも受講できるようにお願いしました。



また、連邦政府が管轄しているパラナ州連邦研修所と呼ばれる専門学校も訪問しました。この学校は、高校を卒業した生徒を対象としており、漁業や水産業、秘書、業務安全管理などの専門知識を取得するためのコースがあります。スタジオには、常に2名の教師がおり、一人はオンラインで授業、もう一人は授業内の質疑に対応しているそうです。生徒は、パラナ



州内にある400以上の拠点校で授業を受けることができ、授業料は無料。修業年限はコースによって異なり、2年～2年半となっています。実際、私もカメラの前に立ってウェブ教師に挑戦してみましたが、生徒の顔を見ずに授業を行うのは難しく、とても緊張しました。オンライン授業では、教師の力量だけでなく、ウェブを通じた指導力が必要で、番組ナビゲーターになりきることが大切だと思いました。



ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルの町を歩いていると、鮮やかなオレンジ色のユニフォームを着た人をよく見かけます。では、この人たちは、一体何をしている人でしょう？

- ①町の安全を守る警備員 ②町をきれいにする清掃員 ③パトロール中の消防隊員



答え ② (ブラジルの町では、ゴミが多く目立ちます。町には、ゴミ箱が設置してあるのですが、そこには捨てないで道端にポイッと捨てる人が多いのです。そこで登場するのが、清掃員。ゴミを入れるキャリアとブラシ、ちりとりをもって2人1組で掃除をしており、夜中也働いています。また、自分の家や店の前の歩道は、所有者のものであるため、道路の舗装や清掃は所有者がやらなければなりません。そのため、ゴミを集めて車道に掃いておくと、清掃員が片付けてくれるのです。)